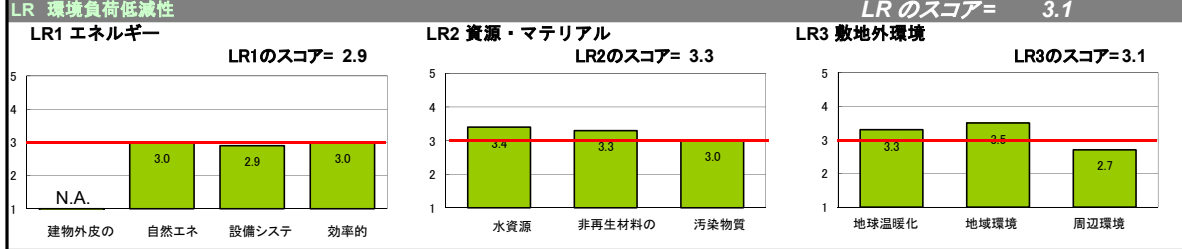
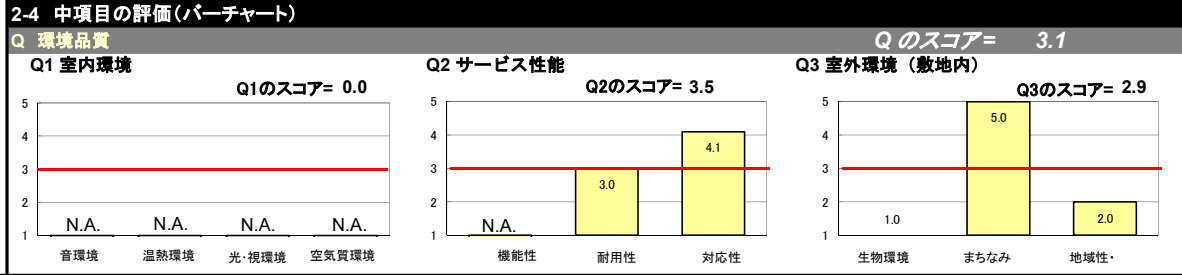
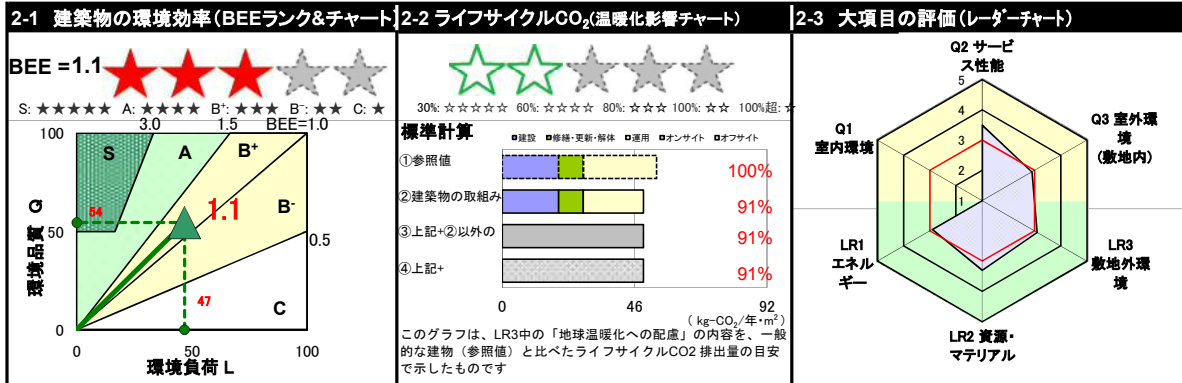


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)ムロオ名古屋支店第2センター	階数	地下2階
建設地	愛知県あま市七宝町徳実道ノ内1~	構造	S造
用途地域	市街化調整区域 防火指定なし	平均居住人員	80人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年9月 予定	評価の実施日	2017年11月9日
敷地面積	16,157 m ²	作成者	上田 泰弘
建築面積	6,076 m ²	確認日	2017年11月9日
延床面積	9,712 m ²	確認者	五洋建設株式会社



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">16.5 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>磁器質タイル (エントランス)</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート	実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄					建物全体・共用部			建物全体・共用部・共用部・宿泊		住居・宿泊部分		全体
	配座項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質															3.1
Q1 室内環境															
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル															
1.2 遮音															
1 開口部遮音性能															
2 界壁遮音性能															
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)															
4 界床遮音性能(重量衝撃源)															
1.3 吸音															
2 温熱環境															
2.1 室温制御															
1 室温															
2 外皮性能															
3 ソーン別制御性															
2.2 湿度制御															
2.3 空調方式															
3 光・視環境															
3.1 昼光利用															
1 昼光率															
2 方位別開口															
3 昼光利用設備															
3.2 グレア対策															
1 昼光制御															
3.3 照度															
3.4 照明制御															
4 空気環境															
4.1 発生源対策															
1 化学汚染物質															
4.2 換気															
1 換気量															
2 自然換気性能															
3 取り入れ外気への配慮															
4.3 運用管理															
1 CO ₂ の監視															
2 喫煙の制御															
Q2 サービス性能															3.5
1 機能性															
1.1 機能性・使いやすさ															
1 広さ・収納性															
2 高度情報通信設備対応															
3 バリアフリー計画			独自												
1.2 心理性・快適性															
1 広さ感・景観(天井高)															
2 リフレッシュベース															
3 内装計画															
1.3 維持管理															
1 維持管理に配慮した設計															
2 維持管理用機能の確保															
2 耐用性・信頼性															3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振															
1 耐震性(建物のこわれにくさ)															
2 免震・制震・制振性能															
2.2 部品・部材の耐用年数															
1 躯体材料の耐用年数															
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			②												
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
4 空調換気ダクトの更新必要間隔															
5 空調・給排水配管の更新必要間隔															
6 主要設備機器の更新必要間隔															
2.4 信頼性															
1 空調・換気設備															
2 給排水・衛生設備															
3 電気設備															
4 機械・配管支持方法															
5 通信・情報設備															

給水・排水管はVPを採用、2種類以上はBを使用、Eは使用不可

3 対応性・更新性				4.1	0.48				4.1
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31				
1 階高のゆとり			2F階高4.2m>3.9m	5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率:0.113<0.3	4.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり			積載荷重:4900N/m ²	5.0	0.31				
3.3 設備の更新性				3.0	0.38				
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57				2.9
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	外装材に地産産の磁器質タイルを採用	5.0	0.40				5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30				2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.1
LR1 エネルギー				-	0.40				2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制									
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28				3.0
3 設備システムの高効率化				2.9	0.43				2.9
4 効率的運用				3.0	0.29				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				
集合住宅の評価									
4.1 モニタリング									
4.2 運用管理体制									
LR2 資源・マテリアル				-	0.30				3.3
1 水資源保護				3.4	0.15				3.4
1.1 節水			大便器、小便器は節水器具、洗面器は自動水栓を採用	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.63				3.3
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	陶磁器質タイル:床材、ビニル系床材:床材	4.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	OAユニットを採用	4.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68				
1 消火剤				-	-				
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50				
3 冷媒				3.0	0.50				
LR3 敷地外環境				-	0.30				3.1
1 地球温暖化への配慮		①	LCCO2排出率91%	3.3	0.33				3.3
2 地域環境への配慮				3.5	0.33				3.5
2.1 大気汚染防止			燃焼機器の使用無し	5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自	自転車置場25台、駐車場32台、トラックバス31台を確保 管理用・荷物用車両を確保	4.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33				2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自		-	-				
2 振動		独自		3.0	1.00				
3 悪臭				-	-				
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				3.0	0.70				
2 砂塵の抑制				3.0	-				
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				1.6	0.20				
1 昼間照明及び屋内照明の3方向に漏れる光への対策				1.0	0.70				
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

㈱ムロオ名古屋支店第2センター

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.1	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:16.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	3.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	磁器質タイル(エントランス)
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (株)ムロオ名古屋支店第2セ

計画上の配慮事項	
総合	LED照明器具を採用し設備システムの高効率化を図る。 倉庫としてゆとりある空間を考慮した。 敷地内は緑化を設け、周辺の景観に配慮した。
Q1 室内環境	工場用途のため対象外
Q2 サービス性能	建物の階高,空間の形状,自由さを考慮しゆとりある空間としている。
Q3 室外環境(敷地内)	植栽による良好な景観形成している。 外装材に地場産の磁器質タイルを採用。
LR1 エネルギー	LED照明器具を採用し設備システムの高効率化を図る。
LR2 資源・マテリアル	再利用ユニットとしてOAユニットを採用。
LR3 敷地外環境	燃焼機器を使用しない。
その他	特になし。